

第76期

報 告 書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

名糖産業株式会社

目 次

株主の皆様へ	1
連結業績の推移	5
連結財務諸表	
連結貸借対照表	6
連結損益計算書	7
連結株主資本等変動計算書	8
連結キャッシュ・フロー計算書	8
個別業績の推移	9
個別財務諸表	
個別財務諸表（要約）	10
個別株主資本等変動計算書	11
会社の概要、株式の状況、役員	12

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜わり厚く御礼申しあげます。

さて、当社第76期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の営業の概況につきましてご報告申しあげます。

<事業の経過およびその成果>

当連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な世界経済が追い風となるなかで、良好な雇用環境や賃上げなどにより消費が底堅く推移して、景気の回復基調が続きました。しかし、米国の保護主義的な政策や深刻な人手不足などが企業経営のリスクとして意識されて、景気の先行きには慎重な見方も残りました。

当社グループの中核事業の一つである菓子・食品の市場におきましては、消費者の高付加価値商品への需要が高まる一方で、企業間の市場獲得競争により膨らむ販売促進費などが企業収益を圧迫しました。

こうした情勢のもと、当社グループは、商品の品質向上と安全性確保のため品質管理体制の強化に引き続き注力するとともに、お客様の健康志向にお応えするハイカカオチョコレートなどの高機能商品の提供ならびに販売促進キャンペーンなど精力的な営業活動を推進してまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度比6.5%増の23,565百万円となりました。営業利益につきましては、売上規模の拡大に加えて売上原価率の改善、退職給付費用の減少などにより、前連結会計年度比66.6%増の927百万円となりました。また、経常利益は営業利益の改善に加えて受取配当金などの営業外収益の増加などにより、前連結会計年度比38.0%増の1,422百万円となりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、特別利益に投資有価証券清算益16百万円を、特別損失に投資有価証券評価損197百万円、固定資産の減損損失148百万円および関係会社出資金評価損77百万円を計上しました結果、前連結会計年度比24.3%減の664百万円となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

食品事業

当連結会計年度におきましては、主力の菓子部門は「お客様に喜んで戴ける商品づくり」をテーマとして商品開発を行い、「アルファベットでメッセージお届け大作戦！キャンペーン」などの販売促進活動を展開したことなどにより、売上が好調に推移して増収となりました。チョコレート類は、チョコレートの健康効果に関心が寄せられるなか、主力ブランドの「アルファベットチョコレート」や新商品の「アーモンドチョコレート カカオ73」などのファミリータイプの商品や、受託商品などが売上を伸ばして増収となりま

した。キャンディ類は、自社商品が健闘して増収となりました。

粉末飲料部門は、「meitoレモンティー発売40周年記念キャンペーン」やレシビ提案サイトとのタイアップ企画、増量キャンペーンなどの販売促進活動に取り組みましたところ、売上が拡大して増収となりました。

また、主として九州地区で製造・販売している冷菓部門は、受託商品が売上を落としましたが、自社商品が伸長して増収となりました。

そのほか、連結子会社の株式会社エースペーカーは、積極的な営業施策を継続しましたところ、ケーキ類は売上を伸ばしましたが、主力のパウムクーヘン類が市場競争の激化により苦戦して減収となりました。

これらの結果、食品事業の売上高は前連結会計年度比6.5%増の20,972百万円となりました。営業利益につきましては、販売促進費や減価償却費の増加などが利益の圧迫要因となりましたが、売上高の増加や退職給付費用の減少などによる売上原価率の改善などにより、前連結会計年度比25.9%増の1,262百万円となりました。

化成事業

酵素部門につきましては、海外を主な市場としており円安の恩恵を受けるなか、チーズ用凝乳酵素「レンネット」の売上は増加しましたが、脂肪分解酵素「リパーゼ」が苦戦して海外での売上を落とし、減収となりました。

また、薬品部門につきましては、医薬品、X線フィルムなどの原料用の「デキストラン」および乳癌転移検出用医療機器で使用される「デキストランマグネタイト」などが売上を伸ばし、増収となりました。

これらの結果、化成事業の売上高は前連結会計年度比6.0%増の2,278百万円となり、営業利益につきましては前連結会計年度比111.5%増の230百万円となりました。

不動産事業

不動産事業につきましては、ゴルフ場の営業収入の増加などにより、売上高は前連結会計年度比3.9%増の315百万円となりましたが、営業利益は前連結会計年度比1.3%減の111百万円となりました。

<設備投資の状況>

当連結会計年度の設備投資総額は7,555百万円で、主なものは愛知県瀬戸市の新工場建設の購入手付金などであり、これらに必要な資金は、自己資金および金融機関からの借入金により調達いたしました。

<資金調達の状況>

当社はチョコレートの新工場建設の資金調達を目的として、取引銀行6行との間に総額13,360百万円のシンジケートローン契約を締結しております。なお当連結会計年度末における借入実行残高は5,500百万円であります。

＜対処すべき課題＞

当社グループを取り巻く環境は、世界経済の成長を背景に景気の回復基調が続いているものの、消費者は商品価格に敏感で節約志向が根強く残っており、企業間の厳しい販売競争が続くものと懸念されます。また、食品業界におきましては、販売促進費や物流コストなどの負担が収益を圧迫する一方で、消費者の健康や安全性への志向がますます高まっており、食品の安全性確保と品質向上への取り組みが一層強く求められております。

このような状況のもと、当社グループは、安全・安心で高機能な商品を提供するとともに、売上規模の拡大や設備の更新、事業活動の効率化を進めて収益力の強化を図り、永続的な発展と企業価値の増大を目指してまいります。具体的な取り組み課題は以下のとおりであります。

* 食品事業につきましては、国内では少子高齢化や人口減少が進むなかで、市場の縮小による企業間の販売競争は激しさを増しており、厳しい経営環境が続くものと予想されます。このような環境のもと、当社グループは、消費者の健康志向や高品質な商品の要請にお応えできるよう、需要の変化を的確に捉えた商品開発と販売活動に取り組んでまいります。同時に「アルファベットチョコレート」や粉末飲料の「レモンティー」、また連結子会社である株式会社エースペーカーリーの「厚切りバウムクーヘン」などの中核ブランドをさらに強化するとともに、グループ各社の連携を一段と高めて効率的な運営を行い、食品事業の拡大を目指してまいります。

また現在、本年9月の稼働を目指して、愛知県瀬戸市内にチョコレートの新工場を建設しております。新工場を確実に立ち上げ、生産の効率化とコストの低減、品質の向上を実現してまいります。

一方、高齢化社会が進展し介護食の需要が高まるなか、栄養食品につきましては、高齢者の健康に配慮した商品を提案して、収益の拡大を目指してまいります。

さらに、株式会社エースペーカーリーにおきましても、お客様に満足いただける商品づくりと精力的な営業活動に取り組み、販売シェアの拡大と収益力の向上に努めてまいります。

今後も当社グループは、原材料の厳選とFSSC22000に則った食品安全マネジメントシステムの運用などにより品質管理体制を強化して、お客様に安全で高品質な商品をお届けできますよう注力してまいります。

* 化成品事業の酵素部門におきましては、主力製品であるチーズ用凝乳酵素「レンネット」の欧米・中近東・中南米など海外市場での販売促進を一層強化してまいります。改良次世代品につきましては、その付加価値を活かして販路の拡大に努めるとともに、既存品につきましても海外主

要顧客との連携を強化し、販売シェアの拡大を目指してまいります。脂肪分解酵素「リパーゼ」やリン脂質製造酵素「ホスホリパーゼ」につきましては、新規用途開拓および既存用途での顧客開拓を推進するとともに、主力製品以外の製品の用途開拓に努め、販売拡大に取り組んでまいります。また、生産の効率化やコスト削減を進めて収益力の強化を図ってまいります。さらに「レンネット」第三代製品の開発、「リパーゼ」の製法と品質の改良を促進し、それらの技術や製品の早期の実用化を目指してまいります。

薬品部門では、MRI（磁気共鳴画像）診断用肝臓造影剤『リゾビスト』の原薬「フェルカルボトラン」を始めとする磁性流体「デキストランマグネタイト」につきましては、癌のリンパ節転移検出用機器の普及とともに、新たな画像診断装置での利用や新規MRI造影剤の開発研究を促進してまいります。医薬品などの原料である「デキストラン」につきましては、食品用途や特殊な工業用途での販売促進、国内外での販路拡大に取り組んでまいります。また、「デキストラン」から合成した誘導体の化粧品素材や臨床検査用試薬などでの販売拡大とともに、新規機能の開発を通して新たな販路の開拓を目指してまいります。混合飼料「ヘルシーフレンド」につきましては、飼料等の適正製造規範（GMP）の確認証を取得しており、引き続き国内外での販売拡大に努めてまいります。

いずれの分野でも国内外からの安全と品質に対する要請が強まっておりますので、食品用途に関しましてはFSSC22000、医薬用途におきましては原薬GMPガイドラインに則り、生産管理、品質管理基準の向上に取り組む、事業基盤の強化に努めてまいります。

今後とも時代の変化に対応し、お客様に信頼され社会に貢献できる企業として継続的に発展するよう、全社を挙げて努力する所存であります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご指導とご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

平成30年6月

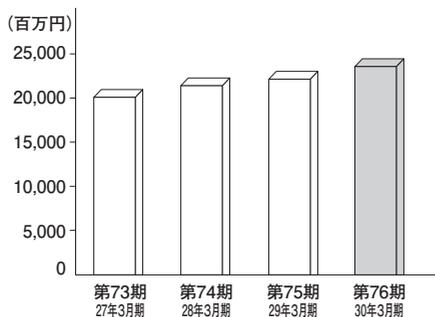
代表取締役社長 小 島 寛 志

連結業績の推移

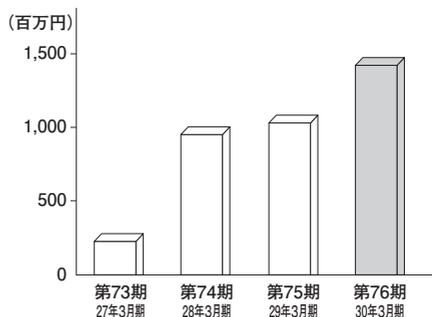
区 分	第73期 (平成27年3月期)	第74期 (平成28年3月期)	第75期 (平成29年3月期)	第76期(当期) (平成30年3月期)
売上高(百万円)	20,080	21,390	22,137	23,565
経常利益(百万円)	224	951	1,030	1,422
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	64	763	877	664
1株当たり当期純利益(円)	3.86	45.40	51.95	39.32
総資産(百万円)	51,972	51,807	60,570	67,793
純資産(百万円)	38,701	38,670	41,019	44,016

(注) 連結子会社3社
株式会社エースペーカー、名糖乳業株式会社、プリンスゴルフ株式会社
持分法適用会社1社
名糖アダムス株式会社

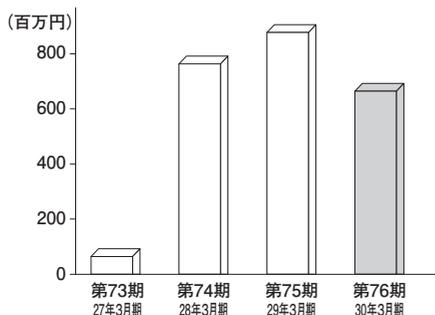
連結売上高



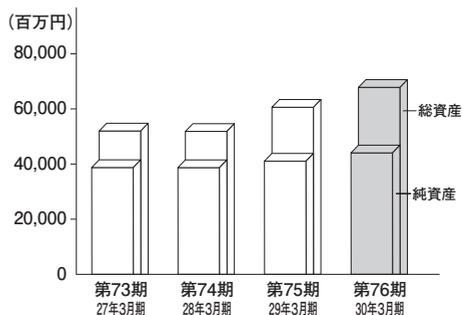
連結経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



連結総資産／連結純資産



連結財務諸表

連結貸借対照表 (平成30年 3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	12,271	流動負債	8,166
現金及び預金	4,605	支払手形及び買掛金	2,534
受取手形及び売掛金	4,834	短期借入金	150
有価証券	199	1年内返済予定の長期借入金	86
商品及び製品	1,057	未払金	2,924
仕掛品	402	未払費用	1,919
原材料及び貯蔵品	940	未払法人税等	263
繰延税金資産	217	返品調整引当金	4
その他	37	その他	283
貸倒引当金	△22	固定負債	15,610
固定資産	55,522	長期借入金	5,727
有形固定資産	18,841	繰延税金負債	6,246
建物及び構築物	4,030	役員退職慰労引当金	7
機械装置及び運搬具	3,356	固定資産撤去費用引当金	210
工具器具及び備品	130	退職給付に係る負債	2,980
土地	5,080	その他	437
建設仮勘定	6,243	負債合計	23,776
無形固定資産	78	(純資産の部)	
投資その他の資産	36,602	株主資本	27,031
投資有価証券	36,465	資本金	1,313
長期貸付金	8	資本剰余金	76
繰延税金資産	2	利益剰余金	26,347
その他	154	自己株式	△705
貸倒引当金	△28	その他の包括利益累計額	16,985
資産合計	67,793	その他有価証券評価差額金	16,987
		退職給付に係る調整累計額	△2
		純資産合計	44,016
		負債・純資産合計	67,793

連結損益計算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金	額
売 上 高		23,565
売 上 原 価		15,025
売 上 総 利 益		8,540
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		7,612
営 業 利 益		927
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	579	
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	64	
そ の 他	15	660
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	29	
固 定 資 産 除 却 損	109	
支 払 手 数 料	23	
そ の 他	3	165
経 常 利 益		1,422
特 別 利 益		
投 資 有 価 証 券 清 算 益	16	16
特 別 損 失		
投 資 有 価 証 券 評 価 損	197	
減 損 損 失	148	
関 係 会 社 出 資 金 評 価 損	77	423
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		1,014
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	440	
法 人 税 等 調 整 額	△90	350
当 期 純 利 益		664
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益		664

連結株主資本等変動計算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計	
当 期 首 残 高	1,313	76	26,020	△704	26,706	14,317	△4	14,313	41,019
当 期 変 動 額									
剰余金の配当			△337		△337				△337
親会社株主に帰属 する当期純利益			664		664				664
自己株式の取得				△1	△1				△1
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）						2,670	1	2,671	2,671
当期変動額合計	—	—	326	△1	325	2,670	1	2,671	2,997
当 期 末 残 高	1,313	76	26,347	△705	27,031	16,987	△2	16,985	44,016

連結キャッシュ・フロー計算書 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

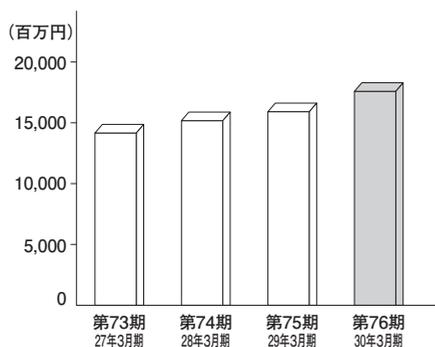
(単位：百万円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,402
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,577
財務活動によるキャッシュ・フロー	△452
現金及び現金同等物に係る換算差額	0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△2,627
現金及び現金同等物の期首残高	7,232
現金及び現金同等物の期末残高	4,605

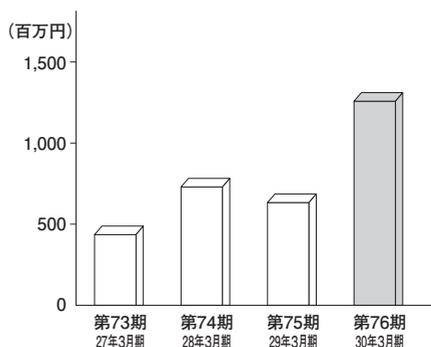
個別業績の推移

区 分	第 73 期 (平成27年 3 月期)	第 74 期 (平成28年 3 月期)	第 75 期 (平成29年 3 月期)	第76期(当期) (平成30年 3 月期)
売 上 高 (百万円)	14,149	15,151	15,878	17,552
経 常 利 益 (百万円)	434	728	632	1,257
当期純利益 (百万円)	28	744	444	558
1 株当たり当期純利益 (円)	1.71	44.26	26.35	33.05
総 資 産 (百万円)	49,185	48,997	57,584	64,646
純 資 産 (百万円)	38,451	38,498	40,156	42,971

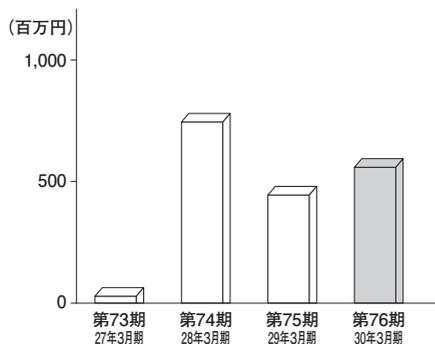
売上高



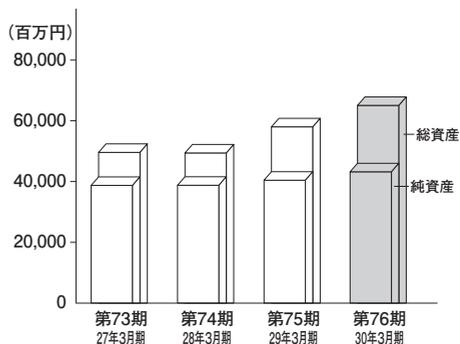
経常利益



当期純利益



総資産／純資産



個別財務諸表（要約）

個別貸借対照表

（平成30年3月31日現在）（単位：百万円）

科 目	金 額
（資産の部）	
流動資産	11,127
固定資産	53,518
有形固定資産	17,729
無形固定資産	71
投資その他の資産	35,718
資産合計	64,646
（負債の部）	
流動負債	6,701
固定負債	14,973
負債合計	21,674
（純資産の部）	
株主資本	26,148
資本金	1,313
資本剰余金	76
利益剰余金	25,463
自己株式	△705
評価・換算差額等	16,823
純資産合計	42,971
負債・純資産合計	64,646

個別損益計算書

（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）（単位：百万円）

科 目	金 額
売上高	17,552
売上原価	10,577
売上総利益	6,975
販売費及び一般管理費	6,176
営業利益	798
営業外収益	605
営業外費用	147
経常利益	1,257
特別利益	16
特別損失	423
税引前当期純利益	849
法人税、住民税及び事業税	425
法人税等調整額	△134
当期純利益	558

（注）1株当たり当期純利益 33円5銭

個別株主資本等変動計算書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本							
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				利益剰余金合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金			繰越利益剰余金	
				配当準備積立金	固定資産圧縮積立金	別途積立金		
当期首残高	1,313	76	328	720	891	22,200	1,103	25,243
当期変動額								
剰余金の配当							△337	△337
当期純利益							558	558
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	220	220
当期末残高	1,313	76	328	720	891	22,200	1,323	25,463

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△704	25,928	14,227	14,227	40,156
当期変動額					
剰余金の配当		△337			△337
当期純利益		558			558
自己株式の取得	△1	△1			△1
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			2,596	2,596	2,596
当期変動額合計	△1	219	2,596	2,596	2,815
当期末残高	△705	26,148	16,823	16,823	42,971

会社の概要 (平成30年3月31日現在)

社名	名糖産業株式会社
本社所在地	名古屋市西区笹塚町二丁目41番地
設立	昭和20年2月
資本金	13億1,325万円
事業内容	食品・化成品の製造販売および不動産賃貸
従業員数	347名
主な事業所	支店 東京・名古屋・大阪・福岡 工場 名古屋・枇杷島・小牧・八王子・福岡
子会社	株式会社エースパーカー (愛知県小牧市) 名糖乳業株式会社 (福岡県飯塚市) プリンスゴルフ株式会社 (福岡県宮若市)

株式の状況 (平成30年3月31日現在)

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	17,265,000株
株主数	11,712名

役員 (平成30年3月31日現在)

代表取締役社長	小島寛志
常務取締役	加藤重昭
取締役	三矢益夫
取締役	山崎潔
取締役	梶原八雄
取締役	藤田欣弘
取締役	山下喜郎
常勤監査役	佐野佳之
監査役	稲越千束
監査役	宮博則

- (注) 1. 取締役山下喜郎氏は、社外取締役であります。
2. 監査役稲越千束氏および宮博則氏は、社外監査役であります。

世代をこえて愛されるおいしさ。

アルファベットチョコレート



おいしさ
こだわり

自社工場でカカオ豆から一貫生産。
独特のカカオのkokと薫りを持ち味
とした本格派のチョコレート。



スティックメイトFアツート



4種のフルーツティーを詰め合せました。
お好みや気分に合わせてお楽しみください。

株式会社 エースベーカーリー 厚切りバウムクーヘン



丹念に焼き上げたバウムクーヘンを、
食べ易い大きさにカットいたしました。
便利な個包装タイプです。

株 主 メ モ

事業年度 定時株主総会 公告の方法

毎年4月1日から翌年3月31日まで

6月中

電子公告により行います。

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告により公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告のホームページアドレス <http://www.meito-sangyo.co.jp>

上場証券取引所 株主名簿管理人

名古屋・東京

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

(お知らせ)

1. 住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

2. 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

3. 配当金計算書について

配当金支払いの際送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付書類としてご使用いただけます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

*確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

■株主様ご優待

毎年9月末(中間期末)現在100株以上ご所有の株主様へ当社商品または当社グループ会社商品を年1回12月上旬に贈呈させていただきます。

- | | | | | |
|-----------|----------|-------|------|------------|
| ●100株以上 | 1,000株未満 | …………… | 小売価格 | 1,500円相当商品 |
| ●1,000株以上 | 5,000株未満 | …………… | 小売価格 | 3,000円相当商品 |
| ●5,000株以上 | …………… | …………… | 小売価格 | 5,000円相当商品 |

meito

名糖産業のホームページをご覧ください。

<http://www.meito-sangyo.co.jp>

環境に配慮し、植物油インキ
を使用しています。

